

デーヴォ ガイド



2026.2.23-3.1

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(1~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



16:13 さて、ピリポ・カイサリアの地方に
行かれたとき、イエスは弟子たちに「人々は
人の子をだれだと言っていますか」とお尋ね
になった。
16:14 彼らは言った。「バプテスマのヨハネ
だと言う人たちも、エリヤだと言う人たちも
います。またほかの人はエリヤだとか、
預言者の一人だとか言っています。」
16:15 イエスは彼らに言われた。「あなたが
たは、わたしをだれだと言いますか。」
16:16 シモン・ペテロが答えた。「あなたは
生ける神の子キリストです。」
16:17 すると、イエスは彼に答えられた。
「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです。こ
の事をあなたに明らかにしたのは血肉では
なく、天におられるわたしの父です。
16:18 そこで、わたしもあなたに言います。
あなたはペテロです。わたしはこの岩の上に、
わたしの教会を建てます。よみの門もそれに
打ち勝つことはできません。
16:19 わたしはあなたに天の御国の鍵を与え
ます。あなたが地上でつなぐことは天におい
てもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天
においても解かれます。」
16:20 そのときイエスは弟子たちに、ご自分
がキリストであることをだれにも言ってはな
らない、と命じられた。
16:21 そのときからイエスは、ご自分がエル
サレムに行って、長老たち、祭司長たち、
律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺さ
れ、三日目によみがえらなければならないこと
を、弟子たちに示し始められた。
16:22 すると、ペテロはイエスをわきにお連

れして、いさめ始めた。「主よ、とんでも
ないことです。そんなことがあなたに起こ
るはずがありません。」
16:23 しかし、イエスは振り向いてペテロに
言われた。「下がれ、サタン。あなたは、
わたしをつまずかせるものだ。あなたは神
のことを思わないで、人のことを思ってい
る。」
16:24 それからイエスは弟子たちに言われた。
「だれでもわたしについて来たいと思うな
ら、自分を捨て、自分の十字架を負って、
わたしに従って来なさい。
16:25 自分のいのちを救おうと思う者はそれ
を失い、わたしのためにいのちを失う者は
それを見出すのです。
16:26 人は、たとえ全世界を手に入れても、
自分のいのちを失ったら何の益があるで
しょうか。そのいのちを買い戻すのに、人
は何を差し出せばよいのでしょうか。
16:27 人の子は、やがて父の栄光を帯びて御
使いたちとともに来ます。そしてそのとき
には、それぞれその行いに応じて報います。
16:28 まことに、あなたがたに言います。こ
こに立っている人たちの中には、人の子が
御国とともに来るのを見るまで、決して死
を味わわない人たちがいます。」

救いは、他人の考えではなく、自分自身の信仰
によります。自分自身で、イエスを「だれだ」と
言うか、しっかりと確認しましょう。「この岩」
とは、ペテロの信仰告白です。行動でも常に信仰
を表しましょう。
救われた者は「天の御国の鍵」を預かっていま
す。無駄にしないで、それを使いましょう。救い
のためにその人に祈ってあげることが第一です。
主の救いのご計画のためにイエス様が「苦しみ

を受け」られたように、私たちも十字架を負
う必要があります。そこにはすばらしい「報
い」があるのです。

ですからイエス様の弟子として、安心して
ついて行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願い
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 24日 火曜

マタイ



17:1 それから六日目に、イエスはペテロとヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。

17:2 すると、弟子たちの目の前でその御姿が変わった。顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった。

17:3 そして、見よ、モーセとエリヤが彼らの前に現れて、イエスと語り合っていた。

17:4 そこでペテロがイエスに言った。「主よ、私たちがここにいることはすばらしいことです。よろしければ、私がおこに幕屋を三つ造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」

17:5 彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲が彼らをおおった。すると見よ、雲の中から「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け」という声があった。

17:6 弟子たちはこれを聞いて、ひれ伏した。そして非常に恐れた。

17:7 するとイエスが近づいて彼らに触れ、「起きなさい。恐れることはない」と言われた。

17:8 彼らが目を上げると、イエス一人のほかには、だれも見えなかった。

17:9 彼らが山を下るとき、イエスは彼らに命じられた。「あなたがたが見たことを、だれにも話してはいけません。人の子が死人の中からよみがえるまでは。」

17:10 すると、弟子たちはイエスに尋ねた。「そうすると、まずエリヤが来るはずだと律法学者たちが言っているのは、どういうことなのですか。」

17:11 イエスは答えられた。「エリヤが来て、すべてを立て直します。

17:12 しかし、わたしはあなたがたに言います。エリヤはすでに来たのです。ところが人々はエリヤを認めず、彼に対して好き勝手なことをしました。同じように人の子も、人々から苦しみを受けることになりま

す。」

17:13 そのとき弟子たちは、イエスが自分たちに言われたのは、バプテスマのヨハネのことだと気づいた。

イエス様はこれから成し遂げようとする救いのみわざについて、モーセおよびエリヤと話し合われました。モーセは律法の代表的人物であり、エリヤは預言の代表的人物です。どんな出来事であったのか、またどんな内容だったのかは具体的に書かれていませんが、イエス様が十字架で律法と預言とを完全に成就なさろうとしておられることは分ります。

イエス様は全人類の救いのために前進しておりましたが、ペテロはここに記念の「幕屋を造り」とどまろうとしました。これほどの神体験をした自分が誇らしかったとうのもあるでしょう。本当の神体験は、過去の証しに留まるのではなく、常に前進しておられる主とともに、自分も前進するものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25日 水曜

マタイ

17:14 彼らが群衆のところに行くと、一人の人がイエスに近寄って来て御前にひざまずき、

17:15 こう言った。「主よ、私の息子をあわれんでください。てんかんで、たいへん苦しんでいます。何度も火の中に倒れ、また何度も水の中に倒れました。」

17:16 そこで、息子をあなたのお弟子たちのところに連れて来たのですが、治すことができませんでした。」

17:17 イエスは答えられた。「ああ、不信仰な曲がった時代だ。いつまであなたがたと一緒にいなければならぬのか。いつまであなたがたに我慢しなければならぬのか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」

17:18 そして、イエスがその子をお叱りになると悪霊は出て行き、すぐにその子は癒やされた。

17:19 それから、弟子たちはそっとイエスのもとに来て言った。「なぜ私たちは悪霊を追い出せなかったのですか。」

17:20 イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに言います。もし、からし種ほどの信仰があるなら、この山に『ここからあそこに移れ』と言えば移ります。あなたがたにできないことは何もありません。」

17:21 ☆

17:22 彼らがガリラヤに集まっていたとき、イエスは言われた。「人の子は、人々の手に渡されようとしています。」

17:23 人の子は彼らに殺されるが、三日目によみがえります。」すると彼らはたいへん悲



しんだ。

17:24 彼らがカペナウムに着いたとき、神殿税を集める人たちがペテロのところへ近寄って来て言った。「あなたがたの先生は神殿税を納めないのですか。」

17:25 彼は「納めます」と言った。そして家に入ると、イエスのほうから先にこう言われた。「シモン、あなたはどう思いますか。地上の王たちはだれから税や貢ぎ物を取りますか。自分の子たちからですか、それとも、ほかの人たちからですか。」

17:26 ペテロが「ほかの人たちからです」と言うと、イエスは言われた。「ですから、子たちにはその義務がないのです。」

17:27 しかし、あの人たちをつまずかせないために、湖に行って釣り糸を垂れ、最初に釣れた魚を取りなさい。その口を開けるとスタテル銀貨一枚が見つかります。それを取って、わたしとあなたの分として納めなさい。」

「信仰が薄い」のはいけないが、「からし種」のように小さいのは良いのでしょうか。「薄い」というのは、色々な言動の中で信仰の割合が少ないということでしょう。またからし種は小さくても命があります。これらの点に着目して、自分自身がどうであるか考えてみましょう。

立派とは言えないような小さな信仰でも、命ある主にしっかりと結びついて、命ある信仰となりましょう。それをしないで、あれやこれやと自分の経験や知識に頼って、信仰を薄めることのないようにしましょう。

また、私たちは神様の子ですから、神様から一方的に受ける資格もありますが、この世の人々のつまずきにならないために、義務を果たしましょう。納税も、また手続きも、また教会としての運営のためにも。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 木曜

マタイ



18:1 そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「天の御国では、いったいどれが一番偉いのですか。」

18:2 イエスは一人の子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて、

18:3 こう言われた。「まことに、あなたがたに言います。向きを変えて子どもたちのようにならなければ、決して天の御国に入れません。

18:4 ですから、だれでもこの子どものように自分を低くする人が、天の御国で一番偉いのです。

18:5 また、だれでもこのような子どもの一人を、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。

18:6 わたしを信じるこの小さい者たちの一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首にかけられて、海の深みに沈められるほうがよいのです。

18:7 つまずきを与えるこの世はわざわいです。つまずきが起こるのは避けられませんが、つまずきをもたらす者はわざわいです。

18:8 あなたの手か足があなたをつまずかせるなら、それを切って捨てなさい。片手片足でいのちに入るほうが、両手両足そろったままで永遠の火に投げ込まれるよりよいのです。

18:9 また、もしあなたの目があなたをつまずかせるなら、それをえぐり出して捨てなさい。片目でいのちに入るほうが、両目そろったままゲヘナの火に投げ込まれるよりよいのです。

神の価値観が明かにされます。子どもは能力が劣っていますし、弱くまた分別のないものです。しかし、親を頼りきり、また自分を大人のような偉大

な者たとは思いません。同じように、天の父である神様に対して、信頼して頼りきり、謙遜に弱さを認めることが何よりも大切なのです。

ですから弱い小さい者をつまずかせることはならないのです。同じように自分自身をつまずかせないように、その原因をとなるものは「切って捨てる」必要があります。惜しく思えたり、慕わしく思えるものでも、自分全体がだめになるよりはいいのです。

小さな弱い者を大切に愛し、また小さな弱い自分を大切にしましょう

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27日 金曜

マタイ



18:10 あなたがたは、この小さい者たちの一人を軽んじたりしないように気をつけなさい。あなたがたに言いますが、天にいる、彼らの御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ているからです。

18:11 ☆

18:12 あなたがたはどう思いますか。もしある人に羊が百匹いて、そのうちの一匹が迷い出たら、その人は九十九匹を山に残して、迷った一匹を捜しに出かけないでしょうか。

18:13 まことに、あなたがたに言います。もしその羊を見つけたなら、その人は、迷わなかった九十九匹の羊以上にこの一匹を喜びます。

18:14 このように、この小さい者たちの一人が減びることは、天におられるあなたがたの父のみこところではありません。

18:15 また、もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで指摘しなさい。その人があなたの言うことを聞き入れるなら、あなたは自分の兄弟を得たこととなります。

18:16 もし聞き入れないなら、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。二人または三人の証人の証言によって、すべてのことが立証されるようにするためです。

18:17 それでもなお、言うことを聞き入れないなら、教会に伝えなさい。教会の言うことさえも聞き入れないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい。

18:18 まことに、あなたがたに言います。何でもあなたがたが地上でつなぐことは天でもつながれ、何でもあなたがたが地上で解くこ

とは天でも解かれます。

18:19 まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心をつにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。

18:20 二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」

イエス様は救われていない人を、迷い出た羊のようにあわれみ、探してくださる愛のお方です。クリスチャンはこの九十九匹の羊に相当しますが、救われているということは囲いの中にあるように、主の守りの中にあるのですから、まだ救われていない羊を求めましょう。

イエス様が滅びに向かう人々をどれほど愛しておられるかを、私たちも心に感じましょう。

罪を犯した人に対しては、このように天の権威とともに、愛の配慮を持って導きましょう。「教会の言うことさえも聞き入れないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい。」とうのは、きびしいように感じますが、それは他の人々の価値観を守るため、教会を守るためです。

そして「異邦人が取税人のように扱う」ということは、一方的に愛するということです。この点を忘れないようにしましょう。天国の鍵は愛によって回すのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28日 土曜

マタイ

18:21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」

18:22 イエスは言われた。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。」

18:23 ですから、天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたいと思った。

18:24 清算が始まると、まず一万タラントの負債のある者が、王のところに連れて来られた。

18:25 彼は返済することができなかったので、その主君は彼に、自分自身も妻子も、持っている物もすべて売って返済するように命じた。

18:26 それで、家来はひれ伏して主君を拝し、『もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします』と言った。

18:27 家来の主君はかわいそうに思って彼を赦し、負債を免除してやった。

18:28 ところが、その家来が出て行くと、自分に百デナリの借りがある仲間の一人に出会った。彼はその人を捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。

18:29 彼の仲間はひれ伏して、『もう少し待ってください。そうすればお返しします』と嘆願した。

18:30 しかし彼は承知せず、その人を引いて行って、負債を返すまで牢に放り込んだ。

18:31 彼の仲間たちは事の成り行きを見て非常に心を痛め、行って一部始終を主君に話した。



18:32 そこで主君は彼を呼びつけて言った。『悪い家来だ。おまえが私に懇願したから、私はおまえの負債をすべて免除してやったのだ。』

18:33 私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。』

18:34 こうして、主君は怒って、負債をすべて返すまで彼を獄吏たちに引き渡した。

18:35 あなたがたもそれぞれ自分の兄弟を心から赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに、このようになさるのです。」

人はときどき、言葉によって信仰深さを表したり、また信仰深さをほめたりすることがあります。ペテロは質問しておきながら、自分で答えているところを見ると、この「七度まで」という信仰深さを表そうとしていたようです。

二回までとか、三回までなどと言っていた他の弟子たちは、ペテロの答えの信仰深さをほめたかもしれません。しかしイエス様は、完全数の七に対してさらに七倍してそれを10倍するという、驚く答えをなさいました。これは永遠に赦せということです。

その根拠は私たちが神様から赦されているから、その負債は絶対に返せない負債のようであったからです。ならば他の人の負債が、また悪がどんなに大きくても、赦さないで良いはずはないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 日曜

マタイ



19:1 イエスはこれらの話を終えると、ガリラヤを去り、ヨルダンの川向こうを経てユダヤ地方へ入られた。

19:2 すると大勢の群衆がついて来たので、その場で彼らを癒やされた。

19:3 パリサイ人たちがみもとに来て、イエスを試みるために言った。「何か理由があれば、妻を離縁することは律法にかなっているでしょうか。」

19:4 イエスは答えられた。「あなたがたは読んだことがないのですか。創造者ははじめの時から『男と女に彼らを創造され』ました。

19:5 そして、『それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである』と言われました。

19:6 ですから、彼らはもはやふたりではなく一体なのです。そういうわけで、神が結び合わせたものを人が引き離してはなりません。」

19:7 彼らはイエスに言った。「それでは、なぜモーセは離縁状を渡して妻を離縁せよと命じたのですか。」

19:8 イエスは彼らに言われた。「モーセは、あなたがたの心が頑ななので、あなたがたに妻を離縁することを許したのです。しかし、はじめの時からそうだったわけではありません。

19:9 あなたがたに言います。だれでも、淫らな行い以外の理由で自分の妻を離縁し、別の女を妻とする者は、姦淫を犯すことになるのです。」

19:10 弟子たちはイエスに言った。「もし夫と妻の関係がそのようなものなら、結婚しないほうがましです。」

19:11 しかし、イエスは言われた。「そのことばは、だれもが受け入れられるわけではありません。ただ、それが許されている人だけができるのです。

19:12 母の胎から独身者として生まれた人たちがいます。また、人から独身者にさせられた人たちもいます。また、天の御国のために、自分から独身者になった人たちもいます。それを受け入れることができる人は、受け入れなさい。」

律法の限界が明らかにされています。モーセは離婚するときにはせめて離婚状を渡して誠実な行動を取るようにとの意味で言ったのですが、律法を都合よく解釈して、離婚状さえ渡せば自由に離婚できると取られてしまったのです。当時の男尊女卑の習慣に都合よく合わせられてしまいました。

大切なのは形に合わせるのではなく、主の御心です。規則や伝統なども悪くはありませんが、形だけ守っていれば良いということになってしまうと、勝手な都合で解釈されてしまいます。または命がなくなってしまいます。可能性も生まれません。

聖書でも、聖霊によって開かれなければ、ただの研究対象になってしまいます。主のお心を聞きましょう。聖霊によって、聖書を読みましょう。生きた主の、今のみわざと御声に耳を傾けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

